



書室では木口木版画の販売も  
行っています。今年の夏、7枚  
目となる新しい絵柄を追加しました。  
タイトルは「SUMMER EVENING」で  
す。夜空に花火があがり、ちょうち  
んのトトロが飾られ、草原にはチビ  
トトロがいる夏のワンシーンです。

制作は木口木版画家の宮崎敬介さ  
んです。木口木版画とは、柘植や桜  
などの木を輪切りにした木口面をビ  
ュランという特殊な彫刻刀で刻む凸  
版画で、線の太さや間隔で陰影を表  
現しています。宮崎さんの絵は、館  
内の他の場所でもご覧いただけます。  
地下1階の展示室にある「ゾートロ  
ープ小屋」「びっくり劇場」の背景(原  
画を拡大印刷したもの)、1階常設  
展示室「少年の部屋」には、長編ア  
ニメーション「耳をすませば」に登  
場する“牢獄でヴァイオリンを作る  
職人”の絵を展示しています。

木口木版画、アニメーションのイメージボード(水  
彩画)や背景画、セル画、壁に描かれた二セ窓も含  
めて、館内には様々な絵を飾っています。絵に注目  
して館内をまわるのはいかがでしょうか。



季刊トライホークス 2023年 | 72号  
発行日……2023年9月1日 | 発行人……中島清文  
発行所……徳間記念アニメーション文化財団  
東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館  
編集……石光紀子 塚原瑞穂 | デザイン……川島弘世  
印刷……図書印刷株式会社 | 非売品



## 書籍『君たちはどう生きるか』

今年の夏、スタジオジブリの長編ア  
ニメーション「君たちはどう生きるか」  
が公開されました。映画の原作ではあ  
りませんが、タイトルを借りた『君た  
ちはどう生きるか』を改めてご紹介し  
たいと思います。

この本が出版されたのは1937年、  
新潮社の子ども向けシリーズ「日本少  
国民文庫」の一冊として出版されまし  
た。著者である吉野源三郎は、このシ  
リーズの編集主任として関わった後に、  
岩波書店に入社。岩波少年文庫の創刊  
にも深く関わっています。出版されて  
から80年以上たちましたが、2017年  
には漫画版が出版され200万部を超え  
る大ベストセラーとなり、スタジオジ  
ブリが制作中だった映画のタイトルと  
同じであることも話題となり、今もな  
おたくさんの人に読まれています。

「君たちはどう生きるか」というまる  
で自分に語りかけてくるかのようなタ  
イトルに反応し、本をよく手に取るの  
は若い方です。皆さん、どんな本だと  
想像するのでしょうか。主人公のコペ  
ル君は叔父さんとの対話から、自分が  
世界の中心なのではなく、世界の一部  
であることに気づいていきます。それ  
は、別方向からの物の見方や考え方を  
得ることであり、固まっていた状況や  
心を解きほぐしてくれることにつな  
がるのだと思います。未来には希望だ  
けでなく不安もある、その中で「どう  
生きるか」と問われることは、年齢に関  
係なくストレートに心に響いてきます。

この本について宮崎駿監督が語った  
インタビューもあります。スタジオジ  
ブリが毎月発行している「熱風」2006  
年6月号の特集「ロングセラーという



君たちはどう生きるか  
著者…吉野源三郎  
岩波文庫 1,067円

名のベストセラーを読む」で、「失わ  
れた記憶の風景 吉野源三郎著『君た  
ちはどう生きるか』をめぐって」が掲  
載されました。現在は『折り返し点』  
(岩波書店)に収録されています。

# 土橋とし子

Toshiko Tsuchihashi

きっかけは、  
いつでも…、どこにでも…

図書室で人気の『おちゃのじかん』。お茶の種類や楽しみ方など、いろいろな国の「お茶の時間」をこの一冊で楽しめませす。また、一度見たら目が離せなくなる独特な画風は、土橋さんの他の作品も見てみたいと思ってしまう。まだ土橋さんの本に出会っていない方は、ぜひ一冊目として『おちゃのじかん』をご覧ください。



\* \* \* \* \*

子どもの頃、私の家には本棚がありませんでした。両親が全く本を読まない人たちだったから、本のない家だったので。もちろん、絵本も身近にはなかったし、買ってもらった、読んでもらったという記憶も、残念ながらありません。

そんな訳で、子どもの頃の私は、そんなに本を読んでいたのではありません。図書室に通うのでもなく、多分、必要としていなかったのでしょう。そんな私と本との出会いは、もう少し？いやいやかなり先、本に関わる仕事をしている者としては、随分と遅めだったのは確かです。

本を読む楽しみはまだ知らなかったけれど、小学校に上がる前から、絵は描いていたし、好きでした。どういうきっかけで、私が絵を描き始めたのかは全く覚えてないし、そのことを両親に聞いてみたこともないので、謎です。毎朝、新聞に折り込まれてくるチラシの裏に、機嫌良く絵を描いていた記憶は、なんとなくあります。

小学3、4年生ぐらいから、少しずつ本の世界に近づきつつありましたが、やっぱり絵を描くことの方が楽しいし、好きでした。そんな中、教科書で出会った宮沢賢治さんの本は、今でもときどき手に取り、繰り返し読み続けています。御本人が描かれる絵も、とてもいい絵だし、「山男の四月」や「祭の晩」とかがお気に入りです。

どのお話も読む時の年齢や状況で、グッとくる部分や感情移入する人物が違って、切なく哀しくなって、泣けてくることもあります。お話はもちろん、名前のつけ方や造語のセンス、魅力あ

るオノマトペ、何回読んでも味わい深くて、一番よく読んでいる作家さんかもしれません。ちなみに私の場合、宮沢賢治さんのお話は、絵本ではなく文章のみで読みたい派です。

中学生の時に雑誌で、イラストレーターという職業があることを知ったけれど、どうやらなられるのやら？全く想像もつかない田舎の中坊でした。美術系短大の授業で、今まで私が選んでこなかった、見たことのないタイプの面白い絵本に、遅まきながら出会ったのです。西村繁男さんの文のない絵本『おふろやさん』『やこうれっしゃ』（福音館書店）は、面白さも絵も衝撃でした。

親には美術の先生になるとか言いつつ、密かにイラストレーターになりたいと夢想していた私ですが、卒業制作では絵本に初挑戦。今思うと、あまりにも絵本のことをわかってない、素人の単なる絵の本でした。絵本というのは、絵と文がしっかり二人三脚して、編集者さんと並走しながら、作っていくものだ、今の私は思っています。

卒業後は、大阪のデザイン事務所でアシスタントとして働いたのち、24歳で上京しました。東京で出会った人たちから、面白いもの、面白いと思うこと、面白いものを作るということを教えてもらった、特別な時間でした。子どもの時、本に出会えなかったのは残念だし、仕方ないけれど、大人になって新たな本との世界に出会う、濃厚な時間でもあったと思います。

念願だった初めての絵本は、30歳の時に絵を担当した『かぼちゃばたけ』（こどものとも年少版・

福音館書店)、詩人の片山令子さんとお仕事でした。私の好きな画家の一人でもある片山健さんと、たくさんの素敵な絵本を作られている憧れの方と、絵本を作ることが出来たのです。絵本を作りながら、編集者さんたちいろいろな絵本の話をしました。その頃の大きな出会いは、堀内誠一さんが作られた『絵本の世界 110人のイラストレーター』Vol.1、Vol.2です。この本の中には今まで知らなかった、私好みの魅力的なイラストレーターさんたちと、その著作が満載でした。紹介したい日本の大好きな作家さんも本もたくさんあるのですが、今回は私の好きなイラストレーターの翻訳本を選ぶことにしました。

私はイラストレーターなので、どうしても絵の方に眼がいき、好みとしての絵の比重が、お話より大きくなることは否めません。ところが、今回紹介した作家さんたちは、お話も絵と同じくらいイカしてて、愉快でちょっと変テコです。ずっと昔から、外国の子どもたちを愉ませてきた本を、今度は日本の子どもたちのためにと、翻訳された方たちの思いのつまった本です。選ばれし日本語で綴られる翻訳というお仕事には、改めてありがとうございますの気持ちになりました。

ロンドンにあるエドワード・リア(『ナンセンスの本』を作った人)の住んでいた家が、ホテルになっていると知って宿泊したり、モスクワの古本屋でバスネツォフやマブリナの絵本を探したり、イギリスやフランスの蚤の市や古本屋で、ペール

カストール画帖を見つけて大興奮したものです。ラダやチャペック兄弟が暮らしたチェコにも、一度は行ってみたいかった。

全ては、堀内さんの本がきっかけでした。もうすっかり、大人にはなっていましたが、本との出会い、愉しみは果てしなく、私を想像と現実の遠い世界のあちこちに、連れて行ってくれたのです。

今回、紹介した本を改めて読んでみたところ、やっぱり面白かった。もしかしたら、大人にこそおとぎ話やファンタジーが、必要なのかもしれません。そして私も、その世界を感じ、愉しむことが出来る大人でいたいもんだと思った次第。

本に限らずですが、何かに出会うきっかけは、いつでも、どこにでもあって、早いも遅いもなく、どんな風にめぐってくるのかもわからないけれど、確かにあると信じています。

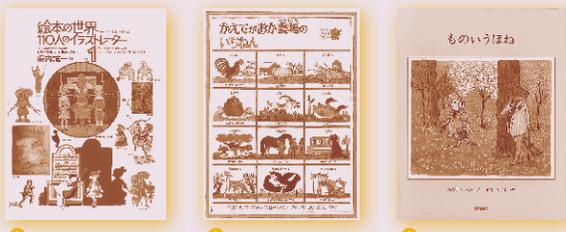
つちはしとしこ

1960年、和歌山県生まれ。浪速短期大学デザイン美術科卒業。デザイン事務所を経て、絵本作家、イラストレーターとして活躍中。主な作品に『なにわくいしんぼうくらぶ』(理論社)『ありのあちち』『ひふみよかぞえうた』(福音館書店)『ムッシーげきじょう』(教育画劇)『極楽さん』(晶文社)他多数。

トライホークスの本  
おちゃのじかん  
作・絵…土橋とし子  
佼成出版社 1,430円



[ ..... 夢中になって読んだ本 ..... ]



- ① 絵本の世界 110人のイラストレーター Vol.1  
美しき絵本の黄金時代 ウィリアム・ブレイクから1920年代まで  
編…堀内誠一 福音館書店 品切重版未定 ◆全2巻
- ② かえでがおか農場のいちねん  
作…アリス&マーティン・プロベンセン 訳…岸田衿子 ほるぷ出版 1,980円
- ③ ものいうほね  
作・絵…ウィリアム・スタイグ 訳…せたていじ 評論社 1,760円

- ◆ ありのフェルダ  
作・絵…オンドジエイ・セコラ 訳…関沢明子 福音館書店 1,760円
- ◆ ショヴォー氏とルノー君のお話集 1~5  
作…レオポルド・ショヴォー 訳…出口裕弘 福音館文庫 660~825円
- ◆ 長い長いお医者さんの話  
作…カレル・チャペック 訳…中野好夫 岩波少年文庫 792円
- ◆ きつねものがたり  
作・絵…ヨセフ・ラダ 訳…うちだりさこ 福音館書店 1,650円
- ◆ けんこうだいいち\*  
作…マンロー・リーフ 訳…わたなべしげお 復刊ドットコム 1,980円
- ◆ 3びきのくま  
文…トルストイ 絵…バスネツォフ 訳…おがさわらとよき 福音館書店 1,210円
- ◆ シチリアを征服したクマ王国の物語  
作…ディーノ・ブツァーティ 訳…天沢退二郎、増山暁子 福音館文庫 715円
- ◆ へんなどうつぶ\*  
作・絵…フンダ・ガアグ 訳…渡辺茂男 瑞雲舎 1,320円

\*印は、土橋さんが選んだタイトルをもとに、現在入手できる本を編集が選びました。

## 本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。  
トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にさせていただけたら嬉しいです。

### ツバメ号とアマゾン号

**物**語の舞台は英国の湖水地方で、夏の間、湖畔の牧場を訪れていたウォーカー一家の4きょうだいが主人公です。「ツバメ号」と名付けたヨットに乗りこみ、湖に浮かぶ小さな無人島に探検に出かけるのです。湖は海に変わり、お母さんや町の人たちも原住民に早変わり。数日間とはいえずもたちだけの時間が始まります。

島をくまなく探検したり、魚を釣ったり、泳いだり、もちろん夜だって4人だけで過ごします。そして「アマゾン海賊」を名乗る姉妹に出会い、お互いの船を賭けた決闘をすることになるのです。こんな素晴らしい夏休みが過ごせる環境でもなく、同じ経験をしたわけではないけれど、子どもだけで何かをするって、ものすごく面白かったし、楽しかった。この本は子どもの頃に感じた思いや記憶を匂いや色までつけて引っ張りだしてくれます。

また、物語をよりリアルにしているのは詳細な描写です。小さな帆船を漕り、湖をあちこち移動する様子は、大型船で航海する本物の乗組員のようです。船の部位をはじめ、子どもたちが船をしっかりと操っている様子が丁寧に描かれています。さらに、情景描写も素晴らしく、去っていくボートを見送るシーンではジブリ作品のワンシーンのような光景が言葉で表されています。例えば「ボートが見えなくなってからずっとあとまで、オールがあげる白い水しぶきが見えた。そして、水しぶきが見えなくなってから、ずっとあとまで、オールをこぐ音がきこえ、それがだんだんかすかになっていった」というシーン。ただボートが去って行ったのではなく、白い水しぶきとかすかなオールの音が余韻となり、場面に興行きを持たせているのです。

著者であるランサムは幼い頃から狩りや釣りを楽しみ、若い頃に船の帆走技術も覚えしました。そして、友人の子どもたちと一緒に楽しんだ経験を元にこの本は書かれたのです。豊かな情景描写で世界を作り上げ、その中で子どもたちがいきいきと活躍する。100年前に書かれた物語ですが、今もお読み手を引きこみ続けています。



ツバメ号とアマゾン号上  
ランサム・サーガI  
作…アーサー・ランサム  
訳…神宮輝夫  
岩波少年文庫 上・下各880円



道楽もの雑記帖  
著者…大塚康生  
編集／構成…叶 精二  
玄光社 2,530円

### 道楽もの雑記帖

**今**年5月に故大塚康生さん（1931-2021）の新しい本が刊行されました。日米のアニメーターやその制作方法の違い、ジープや蒸気機関車を夢中になって描いた少年時代の体験など、ご自身の経験から「描く」ということが語られており、イラストも多数掲載されています。大塚さんの著作やかつて雑誌に寄稿されたエッセイ、講演会の記録といった膨大な資料を、映像研究家の叶精二さんが再構成し、一冊にまとめたものです。初めてテキスト化された貴重なものも含まれており、各章には解説がついていて、原稿が書かれた経緯などを知ることができます。

大塚さんご自身は、自らの仕事を『作画汗まみれ 改定最新版』（文春文庫）に詳しく書かれています。日本の傑作アニメーションの生れた舞台裏が書かれているこの本は、さながら日本のアニメーション史ともいえるのに対し、『道楽もの雑記帖』は大塚さんの「描く」という「アニメーション」に対する考えに、別の角度から触れることができる本だと思います。